



全農教

日本帰化植物友の会通信



NO.7 [2010年2月10日 発行]

静岡県浜松市に帰化したツルセンダングサ（新称）について

植村修二・宮崎一夫

筆者の1人（宮崎）は静岡県浜松市の市街地にある佐鳴湖公園において、数年前、帰化植物と思われるキク科植物を発見した。

筆者の1人（植村）が送付された本種の標本を調べた結果、熱帯アメリカ原産の *Calyptocarpus vialis* Less. (syn. *Synedrellopsis grisebachii* Hieron. et Kuntze ex O. Hoffm.; *Synedrella vialis* (Less.) A. Gray) であることが明らかになったので、ツルセンダングサ（宮崎新称）として報告する。

同地の生育地はヤナギ類や、植栽されたコナラ、シラカシなどが十数株ある林床で、公園内の湿り気のある草地である。株が栄養繁殖して楕円状に広がり、それぞれ長径200cm、60cm、40cmの群落を3か所形成していた。現在も群落を拡大して生育している。本種と随伴する植物はスイバ・アレチギシギシ・ヒナタイノコズチ・ツルノゲイトウ・エノキグサ・オッタチカタバミ・ノブドウ・ヤブガラシ・アレチウリ・ヒメジョオン・アキノノゲシ・セイヨウタンポポ・キシウズズメノヒエなどである。

ツルセンダングサは匍匐性の多年生草本。熱帯地域を

原産とするが、筆者の1人（植村1997）はインドネシア、ジャワ島東部マランの郊外で本種を採集し、大阪府北部（箕面市）で栽培した結果、10年以上越冬し、現在も株を維持していることから本州中部辺りでは十分定着するものと考えられる。なお、採集時点では貧弱な個体であり、当初フシザキソウが小型化した個体ではないかと考えていた（植村）。根は長さ10cm程度でひげ根が多く、節からも根を出す。茎には白色の伏毛があり、太さ2mmで、基部や葉腋で分枝し、四方に広がり、茎先は斜上し高さ10cmほどになる。葉は対生し、長さ1~5cm、幅0.5~3cm、葉柄は0.3~2cm、葉の表裏及び葉柄には伏毛がある。葉表は緑色で、葉裏は淡緑色、葉形は倒卵形~三角状倒卵形で、葉柄に流れ先はやや尖り、葉身の上部3分の2に浅鋸歯がある。初夏から晩秋にかけて、葉腋から細い花柄を伸ばし、先に2~3cmの頭状花をつける。総苞は卵形~広披針形で長さ0.5cm、表裏や縁にやや密に毛がある。舌状花は黄色、長さ0.3cmほどで数個が開く。瘦果は扁平な長楕円形で長さ0.5cm、果体の表



▲浜松市に帰化したツルセンダングサ
(’03.7.6, 浜松市佐鳴湖公園, 宮崎撮影)



▲インドネシア産のツルセンダングサ（左）
(’01.10.27, 箕面市今宮（栽培）, 植村撮影)

▲ツルセンダングサの頭状花（右）
(’04.6.16, 浜松市（栽培）, 宮崎撮影)



▲ツルセンダングサの頭状花と瘦果
(’04.6.16, 浜松市(栽培), 宮崎撮影)

面に凹凸があり有毛であるが、黒熟すると凹凸も毛も少なくなる。瘦果の先端には八の字形に開いた長さ0.3cmの2刺があり、フシザキソウほど顕著ではないが、2型の瘦果をつける。頭状花内部のものは刺が少し長く、外側のものは瘦果の先端の縁が広がって肥厚し、内部にできた瘦果より幅広くなる。刺には逆刺がないか、ごく短くて突起状である。

ツルセンダングサ属(宮崎新称)はフシザキソウに近縁な属で、熱帯アメリカに数種知られている。筆者の1人(植村)はインドネシア、ジャワ島東部トレテスにて、*Calyptocarpus wendlandii* Sch. Bip.と思われる本種よ



▲*Calyptocarpus wendlandii*
(’06.11.19, 箕面市今宮(栽培), 植村撮影)

り大型の種を採集し継続栽培しているが、これも大阪府北部で越冬する。

【主な参考文献】

- 植村修二 1997: インドネシア, ジャワおよびスマトラ島で見た植物(第2報), 近畿植物同好会誌(20):16-22.
- W. L. Wagner *et al.* 1990: Manual of the Flowering Plants of Hawai'i Volume 1, University of Hawaii Press, Honolulu.

注) 本文のツルセンダングサのカラー写真は「帰化植物写真図鑑 第2巻」に掲載しました。

「帰化植物写真図鑑 第2巻」の内容見本



▲セリバヒエンソウ花期(’03.4.19, 東京都)



▲セリバヒエンソウ花(’03.4.19, 東京都)



セリバヒエンソウ [キンポウゲ科]

Delphinium anthriscifolium Hance

(E) Chervil larkspur

中国原産の越年性草本。茎は直立し、上部で分岐し、高さ15~40cmほどになる。葉は3全裂する複葉で、小葉はさらに羽状に深裂する。花期には根出葉はない。春に、茎の先に総状花序を出し、2~5花着ける。花は、長さ1~2cmほどで、ガク片は5個、花弁状となり淡紫色、まれに白色で、長い筒状の距がある。花後、2~3個に分かれた袋状の果実となり、熟すと中にある黒い種子をはじき飛ばす。明治時代に渡来し、東京駒場の旧帝大農学部跡に多く見られたという記録があり、現在も東京周辺に多く、郊外の草原や林間の陽地に生える。

[文献] ● 帰化植物118 ● 帰化図鑑153 ● 原色帰化植物296 ● 日本帰化75 ● 野外図譜 ● 雑草図鑑 ● 杉本検索誌双-151

[分布情報] 千葉(千葉県史料研究財団 2003: 千葉県の自然誌 別編4 千葉県植物誌, 千葉県), 神奈川(神奈川県植物誌調査会, 神奈川県博物館 2001: 神奈川県植物誌 2001, 神奈川県立生命の星・地球博物館), 静岡(杉野孝雄 2008: 静岡県の帰化植物-静岡県の外来植物の侵入と分布-, 富士常葉大学附属環境防災研究所)

『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』

— 予約限定特別割引のご案内 —

2001(平成13)年7月に『日本帰化植物写真図鑑・第1巻』を発行してから、9年が経過しました。この間、年ごとに新しい帰化植物が増え、2009年現在で約1,300もの種が帰化しているといわれています。

第1巻では600余種を収録しましたが、その後、第1巻では分からない草種がたくさん現れているので、早く続編を……という声が多く寄せられています。

このご要望にお応えするため、約480余種を収録した続編を『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』(編・著者:植村修二・勝山輝男・清水矩宏・廣田伸七・水田光雄・森田弘彦(50音順)、沖繩編著者:池原直樹)として、本年5月に発行する予定です。右に掲載した表は、第2巻に収録する予定の帰化植物の一覧です。また、第2巻の体裁は第1巻と同様で、予定頁数は500頁前後となっております。

つきましては発刊を記念し、「全農教・日本帰化植物友の会」会員の皆様に、限定特別割引価格にて、『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』のご予約を募集いたします。締め切り期日(2010年3月20日)までにご予約いただきますと、2割引でお分けいたします。また、『第1巻』もご希望の方がおられましたら、今回お申し込み分限り、2割引きでお分けいたします(詳しくは下記をご覧ください)。

この機会に、ぜひご予約いただきますよう、お願い申し上げます。

記

●『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』 (および『日本帰化植物写真図鑑・第1巻』) 予約限定特別割引のご案内

〔価格〕

- 第2巻: 予価5,000円のところ、**特価4,000円(税・送料込)**で販売いたします。
- 第1巻: 定価4,515円のところ、特価3,600円(税・送料込)で販売いたします(第2巻発行時にまとめたの発送となります。)

〔冊数〕 お申し込み冊数に制限はございません。

〔予約〆切〕 2010(平成22)年3月20日(土)

- 当日消印有効です。
- 〆切以降のお申し込みは、通常会員価格(1割引)になりますので、ご注意ください。

〔申込方法〕 同封の葉書またはFAXでお申し込みください。

※発行予定は2010(平成22)年5月です。

※体裁はB6判、500頁前後を予定しております。

■『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』 掲載予定種一覧

●イラクサ科

カベイラクサ
コケイラクサ
ヒメイラクサ

●タデ科

ヒメイヌスイバ/新称
イヌスイバ
ヤンバルミチヤナギ
ホザキニワヤナギ
カギミギシギシ
ヒョウタンギシギシ

●スベリヒユ科

ツキヌキヌマハコベ

●ナデシコ科

セイヨウミミナグサ
ヒメナデシコ
オムナグサ
ヌカイトナデシコ
カギザケハコベ
イトツメクサ
キヌイトツメクサ
シバツメクサ
ムシトリマンテマ
ヒメシラタマソウ
ホザキマンテマ
アケボノセンノウ
イタリーマンテマ
ツキミマンテマ
アワユキハコベ

●アカザ科

アメリカアリタソウ
キクバアリタソウ
ホシサンゴ
シラゲホウキギ
カブダチアッケシソウ
ノハラヒジキ

●ヒユ科

ムラサキイノコズチ
サジビユ
ハイビユ
イガホビユ
ヒユ

●キンポウゲ科

セリバヒエンソウ
イトキツネノボタン
キクザキリュウキンカ
ハイキンポウゲ

●コショウ科

ウスバスナゴシヨウ

●オトギリソウ科

トミサトオトギリ

●モウセンゴケ科

ナガエモウセンゴケ

●ケシ科

アザミゲシ
シモフリアザミゲシ
シラユキゲシ
ニセカラクサケマン
セイヨウエンゴサク
トゲナガミゲシ/新称
トゲミゲシ

●フウチョウソウ科

アフリカフウチョウソウ

●アブラナ科

シロイヌナズナ
キバナクレス
ハリゲナタネ
カンムリナズナ
キバナスズシロモドキ
ロボウガラシ
ヒメナズナ
キバナスズシロ
ダイコンモドキ
ヒメムラサキハナナ
ダイコクマメグンバイナズナ
タマガラシ
ミミイヌガラシ
ノハラガラシ
ホコバガラシ
●モクセイソウ科
キバナモクセイソウ
ホザキモクセイソウ

●ペンケイソウ科

セイロンペンケイ
キンチョウ
ヨーロッパタイトゴメ
ヒメホシビジン
ウスユキマンネングサ
ヨコハママンネングサ
コケマンネングサ

●バラ科

イワムシロ
ノミノハゴロモグサ
ハイキジムシロ
オランダワレモコウ
キレハクロミイチゴ

●マメ科

アメリカホド
セイナンハナハギ
ハナハギ
ハイクサネム
キダチコマツナギ
キバナノレンリソウ
オクシモハギ
ケミヤコグサ
セイヨウヒメミヤコグサ
ルピナス
キレハウマゴヤシ
ネバリコメツブウマゴヤシ
カギバリウマゴヤシ
タルウマゴヤシ
キバナツノウマゴヤシ
ヒメツノウマゴヤシ
クマツツラハギ
シャクトリムシマメ
ムラサキアメリカツノクサネム
ムラサキツノクサネム
ツノクサネム属
テマリツメクサ
ウナダレツメクサ
ビロードアカツメクサ
ヒナツメクサ
ハクモウアカツメクサ
ジモグリツメクサ
カタバミツメクサ
フウセンツメクサ
ハリエニシダ
ベニクサフジ
キバナカラスノエンドウ
ヒナカラスノエンドウ
オニカラスノエンドウ
イブキノエンドウ

ビロードクサフジ
アレチケツメイ
カラメドハギ

●カタバミ科

アマミカタバミ

●フウロソウ科

ツノミオランダフウロ
オランダフウロ
ミツバオランダフウロ
ジャコウオランダフウロ
オトメフウロ
ヤワゲフウロ
ヤサカフウロ/新称
チゴフウロ
ピレネーフウロ
ヒメフウロ
マルバフウロ

●アマ科

ヒメアマ
シュッコンアマ
アマ

●トウダイグサ科

コバノニシキソウ
アレチニシキソウ
オガサワラコミカンソウ

●ニガキ科

シンジュ

●ヒメハギ科

ハリヒメハギ
クルマバヒメハギ

●ムクロジ科

フウセンカズラ

●ツリフネソウ科

ハナツリフネソウ
アカボシツリフネソウ

●シナノキ科

タイワンツナソ
ツナソ属

●アオイ科

シチゴサンアオイ
フヨウ属
ゼニバアオイ
ミナミフランスアオイ/新称

ヤノネボンテンカ
ホザキキンゴジカ

●アオギリ科

ノジアオイ

●スミレ科

マキバスマレ
アメリカスミレサイシン

●ウリ科

クロミノスズメウリ

●ミソハギ科

アメリカキカシグサ

●ヒシ科

トウビシ

●アカバナ科

エダウチヤマモモソウ
ヤマモモソウ
ミソハギダマシ
キダチキンバイ
セイヨウミズユキノシタ
ホソバタゴボウ
アメリカミズユキノシタ
ミナトマツヨイグサ
ミズーリマツヨイグサ
ヒナマツヨイグサ

●セリ科

ドクゼリモドキ
フランスゼリ
ゴウシュウヤブジラミ
ブラジルチドメグサ
ナガミゼリ
ツルヤブジラミ

●サクラソウ科

セイヨウクサレダマ

●リンドウ科

ベニバナセンブリ

●ミツガシワ科

ハナガガブタ

●キョウチクトウ科

ニチニチソウ

●ガガイモ科

トウワタ

●アカネ科

シラホシムグラ
コメツブヤエムグラ
タマザキフタバムグラ

●ヒルガオ科

ハリアサガオ
アオイヒルガオ
ヒメムラダチヒルガオ
カロライナアオイゴケ
マルバルコウ
ツタノハルコウ
メキシコアサガオ
ノアサガオ
ツタノハヒルガオ
フウリンユキアサガオ
アラゲムラサキ

ルリチシャ

シベナガムラサキ

ハマワスレナグサ

●クマツツラ科

ミナトクマツツラ
ダキバアレチハナガサ
クマツツラ
シュッコンパーベナ

●アワゴケ科

アメリカアワゴケ

●シソ科

コゴメオドリコソウ
キバナオドリコソウ
ニガハッカ
ヌマハッカ
ハナハッカ
セイヨウウツボグサ
ベニバナサルビア
ミナトタムラソウ
オトメイヌゴマ

●ナス科

キダチチョウセンアサガオ
キダチタバコ
ヒメツクバネアサガオ
フウリンホオズキ
センナリホオズキ
ホソバフウリンホオズキ
ネバリホオズキ

キバナホオズキ
ヒメセンナリホオズキ
ウスゲホオズキ
セイヨウヤマホロシ
ラシャナス
ヒラナス
オオイヌホオズキ
ヒメケイヌホオズキ
ケイヌホオズキ
カンザシイヌホオズキ
テリミノイヌホオズキ
ホソバフウリンホオズキ

●フジウツギ科
フサフジウツギ

●ゴマノハグサ科
アメリカウンランモドキ
ツタバキリカズラ
ヒサウチソウ
ムラサキウンラン
キバナウンラン
フタミウンラン
ヒメアメリカアゼナ
ベニヒキヨモギ
シロバナモウズイカ
アレチモウズイカ
ホナガカワジシャ
カラフトヒヨクソウ
コゴメイヌノフグリ

●キツネノマゴ科
ヤナギバルイラソウ
リュウキュウアイ

●ツノゴマ科
キバナツノゴマ
キバナノツノゴマ

●タヌキモ科
オオバナイトタヌキモ
エフクレタヌキモ

●オオバコ科
セリバオオバコ
ニチナンオオバコ
ヘラオオバコ・変種

●オミナエシ科
ウスベニカノコソウ
シロノジシャ

●キキョウ科
ロベリアソウ
●キク科
アメリカトゲミギク
ヒメゴボウ
ワタゲハナグルマ
ホザキカワラニンジン
マルバマンネンオトコヨモギ

イワヨモギ
タカヨモギ
オオホウキギク
ヒナギク
タホウタウコギ
ヒメキンセンカ
イガギク
ツルセンダングサ/新称
ウナズキヒレアザミ
ヒメヒレアザミ
イヌヒレアザミ
アレチベニバナ
ウスイロアレチベニバナ

ヒレハリギク
クロアザミ
イガヤグルマギク
ルリアザミ
エダウチニガナ/新称
モモイロタンポポ
ヤネタビラコ
キクタニギク
オオハキダメギク
タケダグサ
キアレチギク
アイセイタカハハコグサ
セイタカハハコグサ
キバナタカサブrow

ミズヒマワリ
マツバハルシャギク
ウズラバタンポポ
ヒメブタナ
カワリミタンポポモドキ
ゴロツキアザミ
オニウロコアザミ
ゴマギク
ハリゲコウゾリナ
コバレンギク
トキワアワダチソウ
メリケントキンソウ
アレチノゲシ
タイワンハチジョウナ
ホソバノゲシ

カギバリチチコグサ
フトエバラモンギク
バラモンジン
バラモンギク
ハマベノキ

●ユリ科
ハナツルボラン

●ヒガンバナ科
キバナタマスダレ
コサフランモドキ

●ミズアオイ科
ツルアメリカコナギ

●アヤメ科
チリーアヤメ
グラジオラス
アフリカヒメアヤメ
キバナニワゼキショウ

●イグサ科
アメリカクサイ
ニセコウガイゼキショウ
コゴメイ
オニコウガイゼキショウ

●ツユクサ科
トキワツユクサ
ムラサキツユクサ
オオムラサキツユクサ
ツユクサモドキ
マルバツユクサ

●イネ科
ナンカイヌカボ
ノズメノテッポウ
オオハマガヤ
セイヨウヌカボ
ミナトカラスムギ
オニカラスムギ
セイヨウチャヒキ
ホソバツルメヒシバ
ヤクナガイヌムギ
ムクゲチャヒキ
マドリードチャヒキ
カタボウシノケグサ
ヒゲクリノイガ
クシクリノイガ
シマヒゲシバ
クシヒゲシバ

コウセンガヤ
ヒゲガヤ
ヒメタツノツメガヤ/新称
ヒメオニササガヤ
チャボウシノシッペイ
アメリカノキビ
ハガワリトボシガラ
ヒロハウキガヤ
ハリノホ
ヤバネオオムギ
ヒメムギクサ
ミナトムギクサ
ニセクサキビ
コネズミガヤ
アレチイネガヤ
ニコゲヌカキビ
スズメノナギナタ
エダウチチカラシバ
オニクサヨシ
セトガヤモドキ
コイチゴツナギ
ミスジナガハグサ
アレチタチドジョウツナギ
フシネキンエノコロ
ザラツキエノコロ
クサビガヤ
イヌシバ
シラミシバ
ヒトツノコシカニツリ
イヌナギナタガヤ
ノハライトキビ
ノレンガヤ
フトボメリケンカルカヤ
ホウキスズメノチャヒキ
ヒゲナガスズメノテッポウ

●ウキクサ科
ヒナウキクサ

●ガマ科
モウコガマ

●カヤツリグサ科
アメリカミコシガヤ
ヒレミヤガミスゲ
クシロヤガミスゲ
サヤシロスゲ
リーベンボルシースゲ
アメリカヤガミスゲ
ナガバアメリカミコシガヤ
ミクリガヤツリ
ホソミキンガヤツリ

カンエンガヤツリ
アレチハマスゲ
オオタガヤツリ
ヒメミクリガヤツリ
ゴマフガヤツリ
シバヤマハリイ
クルマバヒメクグ
セフリアブラガヤ
ヒメクロアブラガヤ

●カンナ科
ダンドク

●イワヒバ科
イヌカタヒバ

●オシダ科
アメリカシラネウラボ

●アサ科
アサ

●ハナイ科
ミズヒナゲン

●ミカツキゼニゴケ科
ミカツキゼニゴケ

●クズウコン科
ミズカンナ

●ヒメシダ科
イヌケホシダ

●アカウキクサ科
アメリカオオアカウキクサ

【沖縄編】

●イラクサ科
マルバハイミズ

●タデ科
ニトベカズラ

●スベリヒユ科
サンカクハゼラン

●サボテン科
モクキリン

●マメ科
エダウチクサネム
アメリカセンナ
クロタラリア・インカナ
アフリカタヌキマメ
タチクサネム
タチシバハギ
ナンバンアカバナアズキ
オカミズオジギソウ
ミズオジギソウ
ヒメギンネム

●アマ科
キバナアマ

●アオイ科
アカバナトゲアオイ
マルバキンゴジカ

●トケイソウ科
ヒメトケイソウ

●ウリ科
ヤサイカラスウリ

●フトモモ科
フトモモ

●ヒルガオ科
ネコアサガオ
キアサガオ
ヒメノアサガオ
ミミバフサアサガオ
バラアサガオ
フウセンアサガオ

●ナス科
キダチトウガラシ

ヤコウカ
ヤイマナスビ
ルリイロツルナス
キダチイヌホオズキ
セイバンナスビ

●ゴマノハグサ科
ソバガラウリクサ

●キツネノマゴ科
ベニツツバナ
タイワンハグロソウ
ケブカルイラソウ
ムラサキルエリア
ヤハズカズラ

●キキョウ科
ホシアザミ

●キク科
ヤサイコスモス
シロバナイガコウゾリナ
ミスミグサ
タイワンニガナ
コケセンボンギクモドキ
ツルヒヨドリ
ヒイラギギク
タワダギク
ヒメセンニチモドキ
ヤリセンニチモドキ
ニトベギク
ホコガタギク
アメリカハマグルマ
ミチバタギク

●ツユクサ科
ムラサキオモト
ハカタカラクサ

●イネ科
ヒメヒゲシバ
ムラサキタカオススキ
ヨシススキ
アフリカキンエノコロ
ススキメヒシバ
ベチベルソウ

●サトイモ科
オウゴンカズラ

●カヤツリグサ科
カミガヤツリ

●ショウガ科
ハナシュクシャ

●ツルネラ科
キバナツルネラ

●ヒガンバナ科
チトセラン

新刊

サツマイモ事典

(財)いも類振興会／編集・発行

B5判 344頁 (カラー口絵12頁)

定価 4,800円＋税 ISBN 978-4-88137-150-3

17世紀初頭に琉球に渡来して以来、約400年間、サツマイモの歴史は飢えの歴史であると同時に、それらの厳しさに耐え、克服してきた不屈の歴史でもありました。

そして現在、サツマイモはでん粉だけでなく、ミネラルやビタミン、ポリフェノール、 β -カロテンやアントシアニンなどの健康機能性成分、さらには茎葉に含まれる高機能性成分にも注目が集まり、まさに宇宙時代の健康食品としての側面が大きくクローズアップされています。

【本書の特長】

これ一冊があれば、サツマイモのすべてがわかる事典を目指し、サツマイモの起源・伝播、作物としての特性、品種、栽培、普及、流通、加工から食べ方、文化にいたるまでを網羅しました。サツマイモに直接かかわりのある生産者、流通・加工関係者、研究・指導者はもちろん学生、食農や健康に興味の深い消費者にとっても先端作物サツマイモを理解する入門書として役に立ちます。



【本書の構成】

- I章 サツマイモの起源と伝播
- II章 サツマイモの特性
- III章 サツマイモの生産と普及
- IV章 サツマイモの流通・加工・利用
- V章 サツマイモの食べ方
- VI章 サツマイモをめぐる文化
- VII章 世界のサツマイモ事情

新刊

地球温暖化と昆虫

桐谷圭治・湯川淳一／編

A5判 348頁 (カラー口絵11頁)

定価 4,500円＋税 ISBN 978-4-88137-149-7

地球は最後の氷河期から1万年ほどかかって約5°C暖かくなりましたが、現在の温暖化はその10倍から100倍の早さで進行しているといわれています。

昆虫は、世代期間が短く、生活様式が多様で、わずかな温度変化にも敏感に反応しますので、温暖化のような複雑なシステムの変化の動向をいち早く察知する生物指標として適しています。

【本書の特長】

本書は、温暖化の現状から始まって、チョウやカメムシ、セミから虫えいを形成するタマバエ、侵入害虫であるミバエ、ゾウムシ、アザミウマ、さらには世界的に問題になっているマラリアを媒介する蚊まで多様な昆虫が温暖化にどのように反応しているのかを、わかりやすく解説します。

昆虫学研究者・農業関係の研究指導者から学生・生徒、昆虫愛好家まで、幅広い読者を想定して編集しました。



【本書の構成】

- 第1章 温暖化の現状と東アジアの気候
- 第2章 分布域の変化
- 第3章 発生の早期化、季節との同時性
- 第4章 侵入害虫
- 第5章 越冬の生理機構と温暖化
- 第6章 世代数の増加と個体群密度
- 第7章 異常発生と絶滅
- 第8章 高温障害
- 第9章 植物を通しての影響

全農教・日本帰化植物友の会会則

1. 本会は全農教・日本帰化植物友の会と称する。
2. 本会は日本の帰化植物に関する研究の知見、情報の交換を行い、あわせて会員相互の親睦を深めることを目的とする。
3. 本会の事務局は全国農村教育協会内に置く。
4. 本会は日本の帰化植物の研究並びに普及に関係する者、日本の帰化植物に関心をもつ者、並びに本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。
5. 本会に入会を希望する者は、全農教・日本帰化植物友の会事務局宛に氏名、住所、職業、電話、FAX、e-メールなどを記入した入会申込書を友の会事務局宛に提出する。
6. 本会の会費は、当分の間無料とする。但し、情報活動が活発になった場合は、郵送料などの実費を会費として定める。
(会費の必要が生じた場合は、会員に許諾の通知を

する。)

7. 本会は会の目的を達成するため次のような活動を行う。
帰化植物に関する情報の交換
イ) 地域における帰化植物の発生状況
ロ) 帰化植物の生物的特性に関する情報
ハ) 名前、利用、害など植物文化的情報
ニ) 他の情報源の紹介
ホ) 帰化植物の同定に関する質問
会員は以上のような情報を友の会事務局宛に、手紙、FAX、e-メールなどで提供する。事務局はこれらの情報をまとめて帰化植物通信を作成し、会員に配布する。

(附 則)

本会則は平成14年4月1日より施行する。

新刊

花だより百選Ⅲ

～ デジカメで撮った植物写真 ～

江塚昭典／著

B6判 112頁 オールカラー

定価 1,800円＋税 ISBN 978-4-88137-148-0

メールマガジン「花だより」の単行本化、第Ⅲ巻目。著者が庭や公園、道端や野山、さらには海外の旅先でとらえた四季折々の植物写真100点の饗宴です。コンパクトデジカメでも手持ちでも、ここまで美しい写真が撮れる……散歩のお供に、写真撮影の参考にお薦めいたします。

※第Ⅰ巻にあたる「花だより百選」は㈱文芸社から出版されております。お問い合わせは文芸社宛にお願いいたします。なお、第Ⅱ巻の「花だより百選Ⅱ」は、第Ⅲ巻同様、㈱全国農村教育協会より出版しております。

事務局だより

帰化植物通信NO.6(2008年9月)で、続・日本帰化植物写真図鑑の写真募集のお願いをいたしましたところ、86人の方から200余種の新しい帰化植物の写真をご提供いただきました。ありがとうございます。この200種と編・著者が手持ちの写真約300種を基本にして、編集委員会で検討し、480余種を選定して『日本帰化植物写真図鑑・第2巻』として刊行することにいたしました。第1巻をお買い上げいただいた皆様から、第1巻だけでは分からないものがまだ多くあるというお問い合わせをいただいておりますが、第2巻を見ていただければ「ああ」これかと思われるものが多く掲載されていて、ご満足いただけること請け合いです。ご期待下さい。



【掲載種の例】

ワビスケ／サクラツツジ／フキ／コブシ／キランソウ／ヒメザゼンソウ／ディディエバオバブ……他100点

全農教・日本帰化植物友の会事務局

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
(植調会館)全国農村教育協会内

代表 TEL 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665
事務担当 TEL 03-3839-9160

http://www.zennokyo.co.jp
e-mail: kika@zennokyo.co.jp